

IV 標準化会議の事業報告

1. 概要

平成22年度は、一昨年度の経済環境悪化から順調に回復し標準化会議も例年と同レベルの活動を実施することができた。会員ニーズに基づく規格作りを積極的に進めている中で国内標準化活動に目を向けると JIS 1 規格の改正制定と 2 規格の改正原案作成作業を行った。さらに JSMA 1 規格の改正制定を実施し既存 47 規格の総点検を実施中の段階である。

一方国際標準化活動は 11 月に第 6 回 ISO/TC227 ばね国際会議を大阪で自国開催した。P メンバ 13 ヶ国中 12 ヶ国が参加し、日本提案のばね記号は CD 案の討議を進めて投票にかけることを決議した。この投票は 2 月から 3 ヶ月間の予定で行われ可決すると次の DIS 段階へ移行する。

2. 標準化会議の開催

会議	日時・場所	主な議案
第 1 回 標準化会議	平成 22 年 6 月 15 日 機械振興会館	ISO/TC227 ばね活動報告及び審議 国内各規格開発 (JIS、JASO 及び JSMA) 活動内容審議
第 2 回 標準化会議	平成 22 年 10 月 7 日 機械振興会館	ISO/TC227 ばね活動報告及び審議 国内各規格開発 (JIS、JASO 及び JSMA) 活動内容審議
第 3 回 標準化会議	平成 23 年 2 月 23 日 機械振興会館	ISO/TC227 ばね活動報告及び審議 国内各規格開発活動内容審議 今年度活動の総括と来年度活動計画審議

3. 活動の詳細

3. 1 国内規格関係

3. 1. 1 JIS 規格関係

JIS B2804 : 2010 「止め輪」の改正 1 規格を 10 月に発行した。

さらに今年度は 2 件の改正原案作成作業に着手した。JIS B0103 「ばね用語」の改正原案作成作業は 5 月から実施し平成 23 年 2 月末に作業を終了した。JIS B2808 「スプリングピン」の改正原案作成作業は平成 22 年 12 月から平成 23 年 10 月までの予定で実施中。

3. 1. 2 JASO 規格関係

規格委員会の要素部会、車体・シャシ部会の活動に参加し小改正作業を進めた。要素部会の中長期活動計画では JASO F302 「波形ばね座金 (JSMA 規格 SC006 とのダブルロゴ)」の改正原案作成作業を 2015 年以降に実施することが織りこまれた。

3. 1. 3 JSMA 規格関係

議長提案により 10 月から JSMA47 規格の総点検作業を開始した。各部会とも一斉に誤記箇所の抽出、不整合箇所の抽出、見直し時期の均等化、現行規格の統合化検討などの作業を進めた。引続きこの作業は平成 23 年 9 月末まで実施する予定。また機能規格部会では次の 1 規格を平成 23 年 3 月に改正制定し発行した。

(1) SZ002 : 2011 「ばね製図—幾何公差の図示 方法」

なお、熱間ばね部会では下記規格の廃止を提案し 6 月の標準化会議で正式に廃止することが決議された。

(2) SA009 : 2002 「標準部品—重ね板ばね」

(理由 : SA010 : 2009 「重ね板ばね」に包含されていることによる)

3. 2 ISO 規格関係

3. 2. 1 第6回大阪国際会議

国際会議に相羽国際幹事、経済産業省標準化推進室鈴木課長補佐以下9名が出席し、さらに標準化会議委員等オブザーバ10名が参加した。11月8日、9日の2日間開催され1日目は各プロジェクトチーム会議、2日目は本会議が行われた。

中国提案の「熱間成形圧縮コイルばね」は修正DIS段階の討議を進めこの原案を2月から2ヶ月間の投票にかけることを決議した。可決されるとFDIS段階へ移行する。一方日本提案の「ばね記号」はCD案の討議を進め2月から3ヶ月の投票にかけることを決議した。可決するとDIS段階に移行する。

なおこれらは政府制度の国際規格共同開発事業、国際会議日本開催支援事業のツールを活用し、経済産業省、財団法人日本規格協会、株式会社三菱総合研究所の支援を頂きながら実施した。

3. 2. 2 ISO/TC227 ばねの国際規格化推進をはじめとする国際標準化活動

- (1) 4月14日にESF主催のビジネスミーティングがデュセルドルフで行われISO/TC227 ばねの活動を相羽議長が報告した。4月15日には欧州エキスパートと「ばね記号」の意見交換会を行った。日本からは阿久津エキスパート、加藤プロジェクトリーダー、井上専務理事が出席。
- (2) 8月にインド及び中国から「重ね板ばね」の規格開発の提案と原案が国際幹事に提出され9月24日まで投票が行われた。日本はインド案に反対、中国案にはコメント付賛成で投票した。投票結果は何れも否決されたが中国は11月の大阪国際会議でこのプレゼンテーションを実施したこともあり、平成23年11月の本会議にて再度討議が行われることになった。
- (3) 10月に経済産業省技術協力課貿易投資円滑化支援事業のツールにより海外技術者研修協会主催のマレーシアばね国際標準化研修が行われた。協力団体の講師陣として相羽議長以下8名が参加。同月12日から19日まで東京研修センターで実施し同国の研修生17名を対象に国際標準化活動の啓蒙及び組織体強化促進を図った。
- (4) 第6回ISO/TC227 ばね国際会議前日の11月7日に中国メンバと日本メンバで「熱間成形圧縮コイルばね」修正DIS案の意見調整会議を実施した。
- (5) 3月3日に「ばね記号」の意見調整会議をデュセルドルフで欧州首脳と実施した。日本からは相羽国際幹事、加藤プロジェクトリーダーが出席。欧州はこれまでEN規格のばね記号をすべて盛込むよう主張してきたがこの会合で大幅譲歩し図面等の発注作業等で必要となるばね記号に限定することで合意。